

事例紹介

KISCO株式会社様

目指したのはワークスタイル変革、
グローバル化に貢献できるITインフラ

化学品を主力とする商社KISCO様では、ワークスタイル変革やグローバル化に向けたITインフラの整備に取り組んでいます。2016年には、ネットワークや無線LAN環境、データセンター上の仮想基盤を刷新し、あわせて監視システムを稼働させ、東京本社から各拠点の一元管理を実現しました。

導入効果 1	導入効果 2	導入効果 3
社内ネットワークの整備、拡張によるワークスタイル変革	グループ全体のデータを仮想基盤に集約し、グローバル化を推進	各拠点の設備を東京本社で一元管理し、運用性・可用性を向上



川端 浩司氏
KISCO株式会社
管理本部副本部長
兼情報システム担当
兼情報システム室長
執行役員

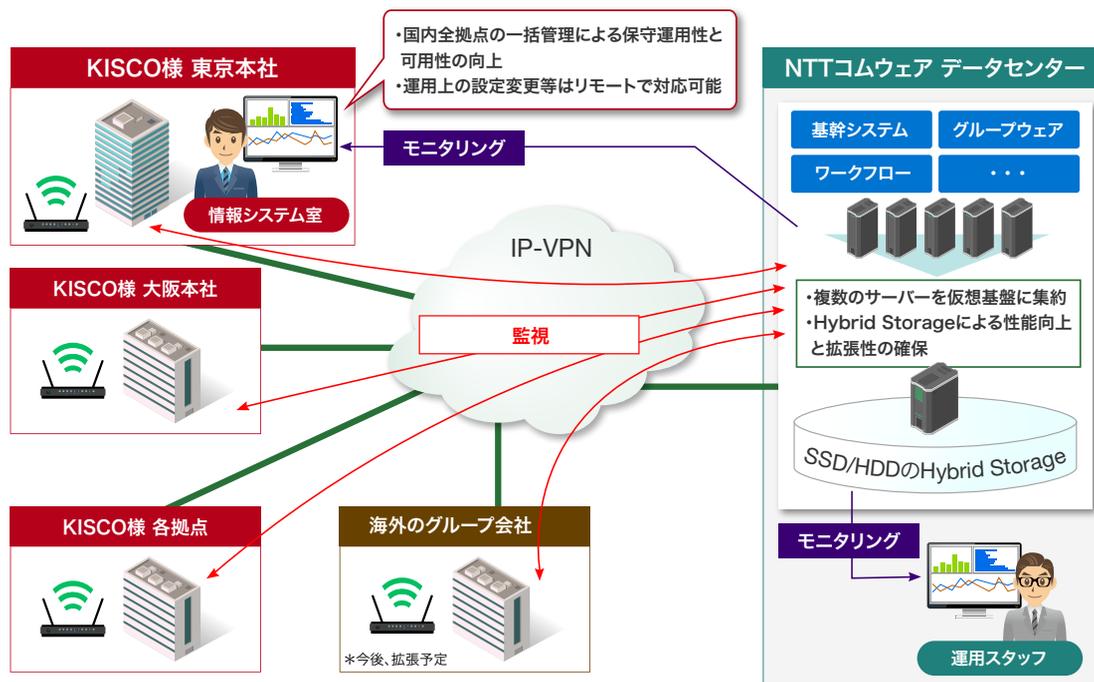
合成樹脂・化学品・エレクトロニクス材料・包装材料などを、製造・IT機器・農業畜産・医療をはじめとする、さまざまな業界向けに提供している商社KISCO様。国内に8拠点をもち、アジアや欧米にもグループ会社があります。

KISCO様が推進しているのは、ワークスタイル変革、グローバル化に向けたITインフラの強化です。ワークスタイル変革の一つとして、オフィスのフリーアドレス化を進めています。また国内外のグループ企業を含めた、同一仮想基盤への集約にも取り組んでいます。

執行役員でもある管理本部副本部長 兼 情報システム室長の川端浩司様は、「グローバル化が進むなか、国内と同じITサービス、同じ品質レベルを海外拠点にも提供することが求められています」と背景を説明します。

情報システム室 課長の油井博様は、「グループ会社が個別に情報管理してはいますが、グループ全体でのガバナンスをさらに強化するため、一元管理するよう進めています。しかし巻き取るとデータ量だけでなく、処理量も増加します。快適性を高めるには、ストレージ容量だけでなく、パフォーマンスを向上させる必要がありました」と語ります。

そこで2016年、ネットワークや仮想基盤の拡張とともに、運用監視の強化に取り掛かりました。構築は2004年から長年にわたり、KISCO様の業務アプリケーション、ITシステム構築や運用、データセンターなどの提供を通してKISCO様の課題を把握していたNTTコムウェアが担当することになりました。



ワークスタイル変革に向けた社内ネットワーク刷新

社内ネットワーク刷新において特に注力したのは無線LAN環境の整備です。従来の無線LANは、フロアごとにネットワークセグメントを分割していたため、別のフロアに移動するなどしてアクセスポイントから離れると電波が弱くなり、「無線LANの接続を維持した状態なのに、通信ができない」という問題が発生していました。

そこで、NTTコムウェアへ相談したところ、「ネットワークセグメントを分けないほうが安定するのでは?」とのアドバイスがありました。同一セグメントで統一すると、最寄りのアクセスポイントに自動的に再接続するようになるため、電波の強い環境が維持され、フリーアドレス環境に適しているといえます。

「同一セグメントに切り替えたところ安定性が向上しました。作業中にネットワークに接続できなくなるといった問題も解消され、業務に集中できるようになりました」(油井様)



油井 博氏
KISCO株式会社
情報システム室 課長

更なるグローバル化に向けデータ集約。ストレージは高速ハイブリッドへ

KISCO様では、NTTコムウェアのデータセンターに設置した仮想基盤に、業務システムやグループウェアなどを稼働させていました。ところが扱うデータ量が急増、さらにグループ会社のデータ集約も進めていたため、ストレージ容量もパフォーマンスにも影響が表れ始めていました。

そこで、高パフォーマンスを誇るSSD(Solid State Drive)と大量データを保管できるHDD(Hard Disk Drive)、両者の利点を兼ね備えるハイブリッドストレージを、NTTコムウェアのデータセンターに設置し、プライベートクラウドの仮想環境を構築しました。そしてこの仮想環境に国内外のグループ会社のデータやシステムの集約を進めています。

以前のHDDベースのストレージに比べて応答速度が1/10に短縮され、月末のような負荷が高まる時期であっても、ユーザーを待たせることがなくなりました。

「基幹システムとグループウェアが同一の仮想基盤で稼働していますが、使用上ストレスを感じることはありません。以前は長時間かかっていたバックアップも短縮できました。海外の時差を考慮するとバックアップの短さは必須条件でした」(川端様)



KISCO様フロア
フリーアドレス環境を実現

SDNでネットワーク機器の状況を見える化。全拠点をリアルタイムに管理

あわせて強化したのが運用監視です。情報システム室は東京本社だけにあるので、かつては他拠点で問題が発生すると、現地に駆けつけたり、設定を済ませた代替機を発送するなどの対応が必要でした。

更改後はオープンソースで構築した監視システムによって東京拠点から各地に点在するオフィスの機器やトラフィックの監視を可能としました。さらに情報システム室の壁面に、ネットワーク機器やトラフィックの状況をリアルタイムに表示する大型ディスプレイを設置。NTTコムウェアとの二重体制で監視しています。高負荷時には障害発生前に回避策を打つことが可能になったほか、他拠点でのネットワーク機器の構成や設定なども情報システム室から実行できるようになりました。

「障害発生時も原因の切り分けが容易になり、解決までの時間も短縮しています。いずれは海外拠点の状況を東京本社からモニタリングしたいと考えています」(油井様)

川端様は「NTTコムウェアには、当社の要望を実現するために最適な提案をいただき、機能面でもコスト面でも納得できるシステムが構築できました」といい、「日本品質の運用は、海外ではなかなか得られません。グローバル化推進にあたって、NTTコムウェアの品質で運用してもらえたら心強いです」とビジネスパートナーとしての期待を口にされました。

担当者の声

KISCO様のニーズを受け止め、これからのビジネス発展に貢献できるITを

KISCO様が目指している将来ビジョンを踏まえて、従業員の方の業務効率向上に役立つIT、将来のビジネスの発展に貢献できるITを、ビジネスパートナーとしてKISCO様とともに作り上げご支援をしていきたいと考えております。

NTTコムウェア株式会社 エンタープライズビジネス事業本部 第二ビジネス部
開発部門 担当課長 近藤光宏(写真右)
営業部門 西岡和昭(写真中央)、齋藤江里奈(写真左)



※ 商品およびサービスの内容は、予告なく変更する場合がありますので、あらかじめご了承ください。 ※ その他、記載されている社名、商品名などは、各社の商標または登録商標である場合があります。
※ 所属部署、役職等については、取材当時のものです。



NTTコムウェア株式会社

URL : <http://www.nttcom.co.jp/>

WEB掲載年月 : 2017.3

お問い合わせ先
URL : <http://www.nttcom.co.jp/contactus/>